

# 東和便り

第21号 道徳講演会号  
2013.10.28 東和中学校

## 教師が学ぶ，教師が変わるために！

### 相澤秀夫先生(宮城教育大学教職大学院教授)による 道徳示範授業・道徳講演会

10月25日(金)5限 2年4組の生徒に道徳の授業をしていただいた。

5限の始まる20分前に、教室に入った相澤先生は、「かしい声で」「すばやく」と板書し、一人ひとりの生徒に点呼をとった。「声が届くまで何度でも返事しよう」と言葉をかけながら、子どもたちの声をほめる。「良い声だね」「完ぺき」「表情も良いね」。授業に集中させるために、子どもたちの性格をつかみ取るために。



相澤先生による範読

授業が始まった。教材は、渡り鳥を題材にした「風切るつばさ」。体の弱いカララにえさをあげるクルル。きつねに襲われ仲間が命を落とし、クルルのせいだと他の鳥たちから責められ、クルルは心を閉ざしていく。カララでさえ、だまってみんなの中に交じっている。

相澤先生の範読，二度目の範読の途中に，大切な文章を生徒達に何度も読ませる。

「内容を考えながら読むんだ」「カララはどんなことを考えたんだろうね」とノートに書かせる。相澤先生が生徒達のノートをのぞき込み、一人ひとりの生徒が書いたキーワードを手にした座席表に書き込む。「良い言葉だね」「うれしくなるね」「言葉に表情があるね」「この言葉の後に、具体的に書き込もうね」と、声をかけながら机間指導をする。生徒達の言葉をつないでいく。生徒達の表情が、生き生きしてくる。



良い言葉に○を書き込む

隣の生徒同士で発表させる(ペア学習)。「友達の意見と名前を赤ペンでノートに書き込もうね」。「『話し合い』というのは、新たなことを思いついたり、発見したりしたことを言葉にすることだよ」と生徒に伝え、「話し合いは考え合い」とノートに赤ペンで書かせる。「『学び合い』というのは、相手や仲間のことをしっかり受け止めることだよ」。

相澤先生は、「大人でも書けない文章だよ」と参加した教員にノートを見て回るように促す。教員は、相澤先生の後をついて行きながら、相澤先生が生徒へかけた言葉を書きとめる。相澤先生は、意図的な指名により生徒に考えを発表させる。それを、つないでいく。

赤ペンで友達の考えを書く

最後に、「大人になって、様々な場面に出会うでしょう。今日の授業と同じような壁にぶつかることがある。そのとき、みんながどう考えるか、今日、考えたことを思い出してほしい」と締めくくった。

その後、教員研修として、相澤先生による道徳講演会・研究協議会を実施した。相澤先生から教えてもらった様々な言葉を以下に書き留める。

- ・道徳の時間は、言葉と向きあう時間。
- ・道徳の資料の中に、自分自身がいるんだ。
- ・子どもの「学び」を素早くとらえることが、子どもに寄り添うこと。
- ・意図的な指名を取り入れ、「発表」させる。「発表」とは、個の学びをつなぎ組み立てること(一人ひとりの学びをみんなで共有するために)
- ・「生き生きとした授業」とは、表面的に活発な授業ではない。子どもが頭の中で自分の考えをしっかりと組み立て、それを言葉で表現している授業である。
- ・授業では、子どもたちの名前をたくさん呼んでやるのが大切。「○○さんが、大事なことを3つ言ってくれたね」「◎◎くんの書いた言葉、うれしくなるね」
- ・授業づくりの命は、書かせること。



授業の中で「書く活動」と取り入れるのは、自分や友達の考えを書くことにより、考えを整理させるためである。自信を持って表現させたり、自分自身の思考の流れが見えて、学びの高まりや定着を実感させるためである。

書くことの意義とは、

- ①立ち止まって、自分と向きあうこと
- ②自分を確かめること
- ③優れて考えること
- ④感性を豊かにすること
- ⑤一過性の体験を一生の財産にして、経験に高めること  
(ノートは思考の運動場、表現力を鍛えるトレーニング場である)
- ⑥自分存在を他に示すこと

講演会の途中で、今日の授業で見えてきたことを隣同士で話し合おうという先生の声かけで、教員同士の「学び合い」が始まった。教員が、自分の考えや意見を発表し、整理していく。



最後に、相澤先生が、「平家物語」を朗読した。那須与一、「扇の的」が目には浮かんだ。すばらしい！「教師自身が、やってみせることが大切なんだよ」と相澤先生が伝えてくれた。

まさしく、教師も「学びひたる」半日だった。

教員相互のペア学習・学び合い

「授業研究は、教師自身が自分の課題に気づく、学校の課題に気づく場。授業改善、学校みんなで取り組むことです」。相澤先生の言葉に背筋が伸びた！

(校長 東方美喜夫)